

# 新しい都市の緑の創造

## 鎌倉—市民による里山再生と環境共生の住まい

古都鎌倉には、緑あふれる丘陵地とそれらに囲まれて、鎌倉では「ヤツ」とか「ヤト」と呼ばれる、田んぼのある細長い谷が数多く存在していた。しかし高度経済成長期のころからは開発が進み、山は削られ宅地となり、田んぼは今やほんの数ヶ所しか残っていない。その一つが山崎に残る谷戸（やと）で、鎌倉中央公園となった現在も市民の手で昔の里山の風景が受け継がれている。

谷戸の田んぼや畑、それらを取り巻く雑木林などは長い間土地の人々によって維持管理、活用され、多種多様な生き物のすみかともなっていた。しかし時代とともに薪も落ち葉も使われずに放置され、田畑の耕作も徐々に手放されていくことになる。それでもまだ原型をとどめていた1985年、自然豊かで昔ながらの風景の山崎の谷戸を、子育ての場にしようと若いお母さんたちによって青空自主保育の活動が生まれた。

ところが1990年に発表された鎌倉市の「鎌倉中央公園」計画は、この谷戸の田んぼや湿地が人工的な広場やキャンプ場になるといったものだった。生態系や谷戸景観を残そうとお母さんたちは市に懸命に陳情するとともに、谷戸で耕作を続けている方に稲作の指導をお願いし、続いて引き込まれたお父さんたちは古老に炭焼きを伝授してもらい、現場での実践による保全活動を展開していった。その甲斐もあって、1996年には市が修正案を作成、新しい道路や施設を加えるものの、田

んぼや湿地も残して活用することとなった。

翌1997年鎌倉中央公園は部分的に開園したものの、未開園部分の谷戸では、地主さんを先生として稲作や畑作を行うグループ、野鳥などの生き物を観察・調査し、生息に必要な手入れも行うグループ、そして自主保育グループなど、多くの市民団体によって活動が展開されていった。市はこれらの諸団体と連携して「市民による農業体験」「子どもの体験学習」などの事業を始め、また市民団体からの提案によって、「谷戸講座」や「鎌倉中央公園フェスティバル」も実現している。

これらのメンバーと市の間では、運営と管理のしくみづくりについて度重なる話し合いがもたれ、2004年春の全面開園とともに「鎌倉中央公園を育てる市民の会」（以下育てる会）が発足した。市から委託された「財団法人鎌倉市公園協会」と役割分担しながら、市民の技と知恵と熱意を活かして協働を行うというのがこの「育てる会」である。



環境共生型団地として再生  
鎌倉レーベンスガルテン山崎



雨水と井戸水を利用したビオトープ



駐輪場などの屋根の緑化



市民農園（クラインガルテン）も併置

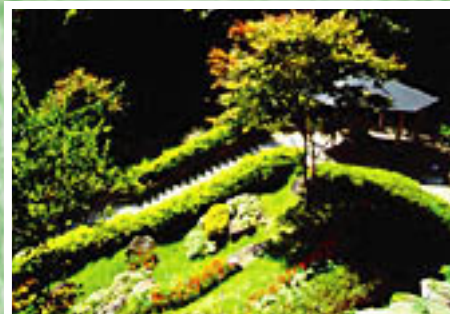
「田んぼ班」は、昔ながらの曲がりくねりドロドロの田んぼで稲作を行い、「畑班」は、芋や豆、麦などさまざまな作物を育てている。いずれも刈り草や落ち葉で作った堆肥を使い、自然資源の循環利用を目指している。「雑木林班」は下草刈りと除間伐を行い、その材で炭焼きをしている。「農芸班」は梅干しづくり、草木染め、わら細工など伝統的な農芸品や食品を作り、「自然遊び班」は子どもを中心に生き物に親しみ、農作業にも触れ、谷戸を冒険遊び場として活用している。「生態系保全班」と「植物育成班」は、他班ではまかないきれない保全作業を担当し、谷戸の生態の観察や調査も行っている。

この秋からは10年来この谷戸で続けられてきた小中学生の体験学習の指導も当会で行うこととなり、子ども達が定期的に谷戸に訪れ、農体験を通じ自然を身体で学ぶこととなった。活動の参加者の顔ぶれもさまざま、メンバーは小さい子どもたちからは元気ももらい、地元の高齢者からは昔話や農作業から知恵を学びとり、活動のなかでは、仕事、子育て、家庭、海外などさまざまな話題を飛び交わせる。力持ちもいれば、器用さに驚かされる人もいる。野良仕事得意な人もいれば、話上手な人もいる…それぞれ個性が活かされ、和気あいあいと楽しい。「育てる会」の活動の魅力は、教育、遊び、憩い、交流、子育て、時には修行の場にもなり得

るところではないかとも考えられる。緑あふれるこの谷戸も、放置すれば田んぼも雑木林も荒れ果て、生物の多様性は失われる。すばらしいこの谷戸の環境は、手入れを続けていくことで維持される。そのためにも育てる会では「人材を育てる」ことが今後の課題となっていくのであろう。この山崎周辺は住宅地においても緑への関心は高い。なかでも旧都市公園の集合住宅団地は2000年、建替えによってモデル的な環境共生型団地「鎌倉レーベンスガルテン山崎」として蘇った。斜面の緑化はじめ、駐輪場屋根の緑化や市民農園クラインガルテンの併置によって、単なる緑や花の整備だけでなく、ささやかながらも農の復元を試みて注目を集めている。鎌倉は中世には農による水と食糧の補給地を背後に持つことによって当時の政治首都の機能を保ち、800年後の現在も緑と水と歴史的景観によって古都たりえている。自然の保全こそ鎌倉の基本的な都市政策であり、最も重要な市民のまちづくり活動ではないだろうか。



昔のかんがい用のため池も芝生で囲んで整備



都市公園として整備された地域



前年収穫したもち米で楽しい餅つき



昔ながらの はさがけと案山子（かかし）



田の草とりや畔の手入れ



小学生の体験学習による田植え